

奨励品種
ぶどう「ノースレッド」

(園試大迫試験地・果樹部)

1. 来歴

「ノースレッド」は、東北、北海道など寒冷地向け品種の開発を目的として、農水省果樹試験場安芸津支場が「セネカ」×「キャンベル・アーリー」の交配により育成した品種で、平成4年6月に品種登録された。

2. 特性の概要

- 1) 発芽、開花期はキャンベルとほぼ同時期であるが、成熟期は7日程度早い。
- 2) 自然状態の果房は有岐円筒形、整形後の円筒形の果房の大きさは250～300g、果粒は円形で5g程度とキャンベルと比べてやや小さい。
- 3) 果皮色は赤褐色。果皮と果肉の分離は容易で肉質は塊状。香気は狐臭を感じるがキャンベルよりも穏やかである。
- 4) 糖度は15～17%、酸は0.44%程度でキャンベルと比べて糖度は2度程度高く、食味は良好である。
- 5) 樹勢、樹冠の広がり、耐寒性等はキャンベル並。花振るい性は若木や樹勢の強い場合にやや見られる。
- 6) 棚持ちはよく、収穫果実の日持ち性はキャンベル並。
- 7) キャンベルと比べて灰色かび病にやや弱い、その他の病害抵抗性はキャンベル並。

3. 奨励品種に採用したい理由

本県ぶどう栽培における品種は紫黒色種のキャンベルが約75%を占めており、新品種の育成が望まれていた。このため、キャンベルより早熟で、食味のよい、耐寒性品種の検討を重ねた結果、本品種は耐寒性があり、早熟で食味(高糖度、果汁多、香気良好)も優れる。一方、消費動向も赤色品種への関心が高く消費拡大が期待できる。また、早熟であるため収穫・出荷等の労力配分上有利と考えられること等から奨励品種に採用する。

4. 主な適応地域及び普及見込み面積

適応地域：県下ぶどう産地全域 栽培見込み面積は100ha

昭和61年度参考事項「ぶどう栽培の気象条件からみた栽培適地図」のキャンベルに合致する地域とし、重粘な土壌、排水不良地帯、奥羽山系多雪地帯は除く。

5. 栽培上の留意点

- 1) 仕立法は長梢仕立とする。(短梢仕立法については現在検討中である)
- 2) 着果の基準は、長さ2m以上の強い枝には2房、1～2m以内の枝には1房を目安とし、それ以下の枝は空枝とする。

3) 収量構成要素の目安

3.3 m ² 当たり		1新梢当り 着房数	1 房 重 (着粒数)	10 a 当たり	
新梢数	着房数			着房数	収 量
20本	24房	1.2房	280g (60粒)	房 7,200	kg 2,000

- 4) 花穂の整形は岐肩を除去し、長いものは房先を摘む(尻止め)。
- 5) 花振り性がみられる場合、実止り後に最終着房数に摘房する。
- 6) 赤色系品種の特性を生かすため過繁茂を避け棚下を明るく維持する。
- 7) 圃場の排水対策、摘粒等を徹底し裂果防止に努める。
- 8) キャンベル・アーリーに比べ灰色かび病にやや弱いので開花前後の防除は基準により適期に行う。

6. 試験成績の概要

表1 ノースレッドおよびキャンベル・アーリーの生態(大迫試験地)

品 種	発芽期 (月日)	開花期(月日)			成熟期 (月日)
		始	盛	終	
ノースレッド	5・2	6・22	6・25	6・27	9・12
キャンベル・アーリー	5・3	6・19	6・22	6・25	9・19

注1) 1989~1993年の5ヶ年平均。

2) 台木: 5BB。1986年1年生樹植栽。

表2 ノースレッドおよびキャンベル・アーリーの果実品質(大迫試験地)

品 種	房 重 (g)	房 長 (cm)	1粒重 (g)	糖 度 (Brix%)	酸 (g/100 ^①)
キャンベル・アーリー	321.0	14.9	6.0	14.7	0.53

注1) 1989~1993の5ヶ年平均。

2) 植栽歴は表1に同じ。